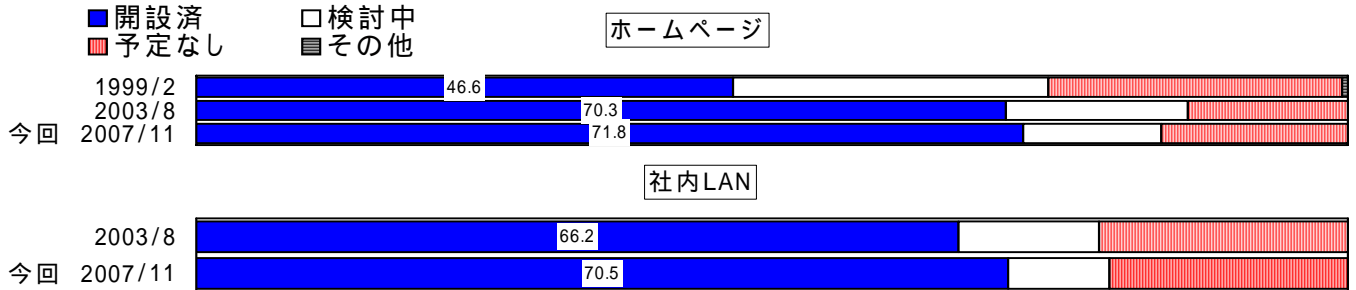


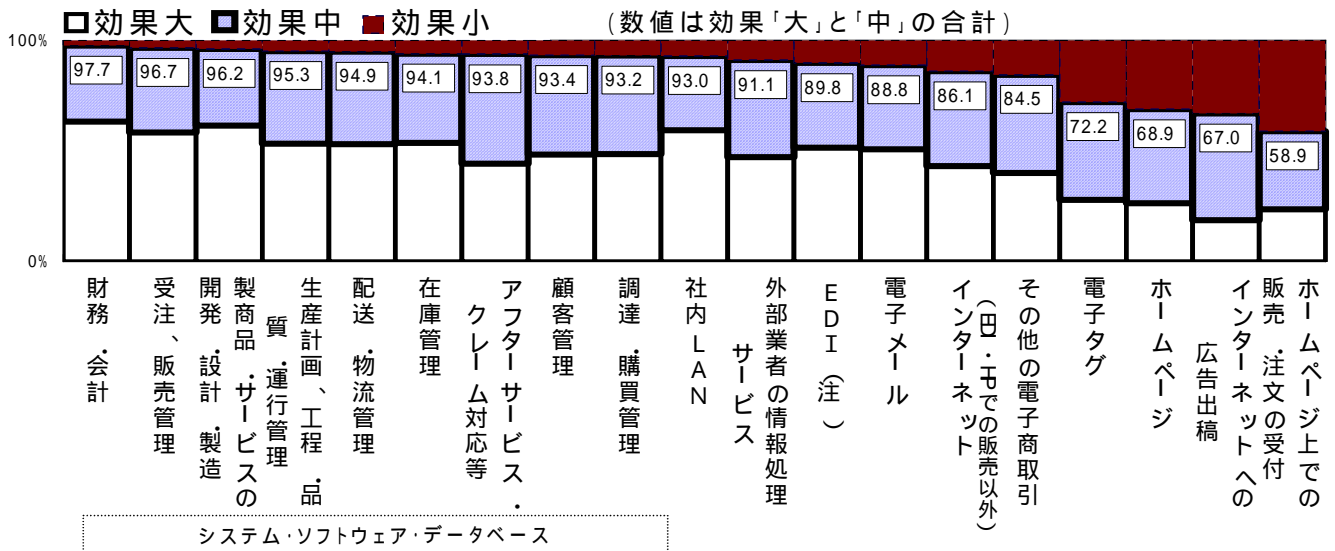
中小企業のIT活用に関する調査(概要版)

中小企業におけるIT活用の状況は着実に進展している。ただし、導入しているITによりその効果は異なる。

IT導入・活用状況:過去調査との比較

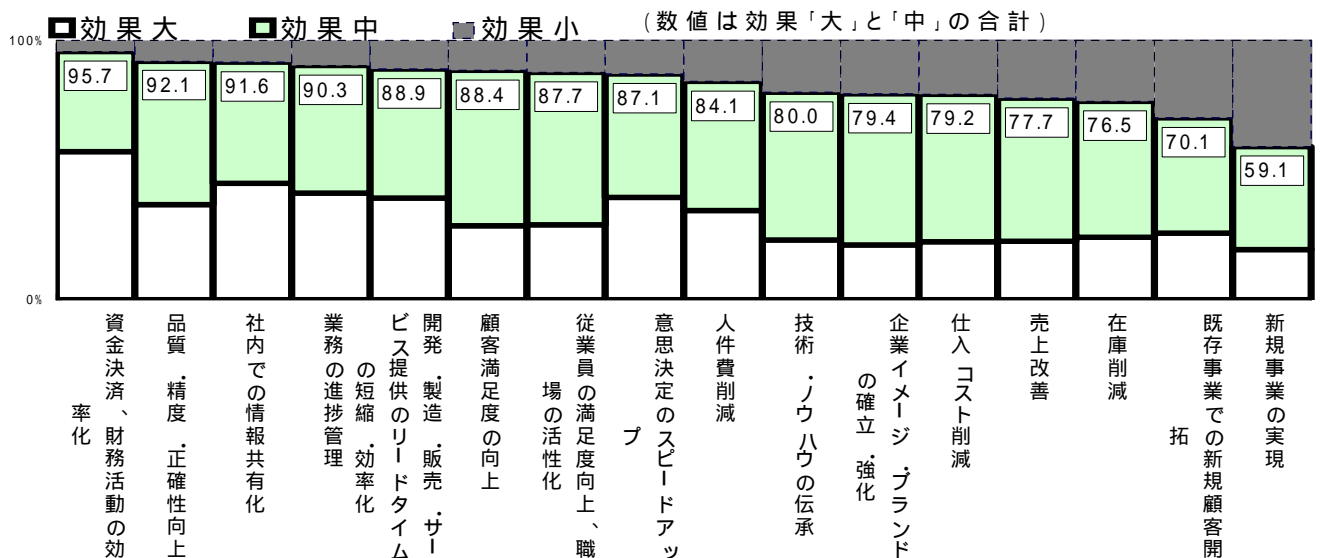


導入・開設済のITの効果



中小企業はITにより様々な経営課題の改善・解決を図っているが、その効果にはバラつきがみられる。

経営課題に対するITの効果



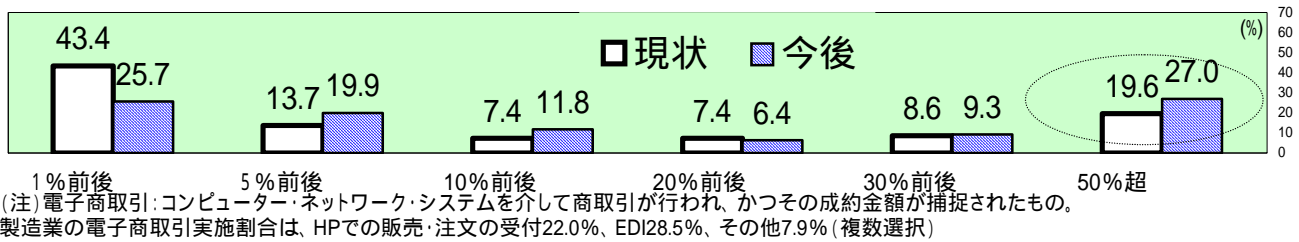
(注)EDI (Electronic Data Interchange、電子データ交換):企業又は事業者間のコンピュータをオンラインで結び、商取引他各種のデータの送受信等を行うことを指す。

製造業では加工型製造業全般で高い効果が認められている。電子商取引実施企業のうちでは、売上の 50% 以上を占める企業も存在。

製造業 IT活用の総合的な効果

製造業計	食料品	繊維	木材・木製品	紙・パルプ	化学	窯業・土石	鉄・非鉄	印刷	金属製品	一般機械	電気機器	輸送用機器	精密機械	
効果「有」	69.2	62.6	72.8	58.0	55.0	71.6	60.0	57.9	71.3	76.0	69.6	76.8	76.2	55.5
効果「無」	5.0	5.0	5.7	6.0	10.0	3.7	5.0	10.5	7.5	4.8	4.5	2.7	1.6	3.7
DI(有・無)	64.2	57.6	67.1	52.0	45.0	67.9	55.0	47.4	63.8	71.2	65.1	74.1	74.6	51.8

売上・販売額全体に占める電子商取引(注)の比率(製造業)
(電子商取引実施企業のみ)



【自由記載より】

繊維	生産状況数を確認し、受注数に合わせた生産をするようになった。デザインをメールにより取り込み生産することができるようになった。	各工程の不良在庫がなくなった。紙からより速くサンプルUPができるようになった。
繊維	ネット販売をすることで、既存問屋との関係を良好に維持できるかが難しい	
繊維	業界的にIT化に対し、後発になっている感があるし、従業員の年齢の高さなども有り、思い切った改革ができていないような気がします。従業員のスキルアップが鍵になると思います。	
化学	社内LAN生産販売管理システムは全て自社で構築した。	自社の業態に必要なプログラムのみを取り入れて運用する事が実現したがパッケージ・ソフト等既製のものではないのでマニュアル整備が追いつかない側面もある
化学	当社オリジナル生産管理システムを導入に依り、社内工数、仕入等の原価管理を徹底する事を実現。	売価との関連付けに依り原価分析を行ない、不採算事業へのテコ入れ、取引先の見直し等により利益の確保の充実化を図った。
金属製品	事務系は27年前からIT化に取り組み、零細企業ではありますが経理・財務からはじまって生産管理・在庫管理まで自社プログラムで運用しています。5年前の得意先EDI対応についても、何らの問題もなく対応しましたが、技術系は大変遅れ、CAD/CAMは今年導入しただけです。	
一般機械	CADデータ変換ソフト導入でインターネット及びメールで入手した顧客のCADデータの即図面化とインターネットによる資料の検索で問題を解消	迅速かつ正確な製品造りが可能となり、結果短期納入ができ顧客の満足度と信頼感向上に寄与している
一般機械	物づくりのデジタル化対応のため設計・製造・検査を一貫生産システムにする。(CAD/CAM/CAE/CAT(注))	・製作工数は従来の1/3・製作コストは従来の1/2・品質面は最終組立精度±0.1mm以下・事前シミュレーションにより製作後の手直しゼロ
電気機器	社内にファイルサーバ、業務サーバ、メールサーバ、ウィルスサーバを構築し、個人ファイル、部門ファイル他全てクライアントPCでなくサーバに保管管理し、2重化し、更に一週間毎日バックアップ(テープ)更新保管している。各人がパスワードを持ってアクセスする。	全ての情報が2重3重にセキュリティーバックアップ管理されて、万一システムダウンしても対応可能。業務はカスタム開発ソフトにより、データがリンクして効率向上にもなっている。
精密機器	IT化はとても便利ですが、パソコンの故障、データの消失などITに頼れば頼る程、不安です。	

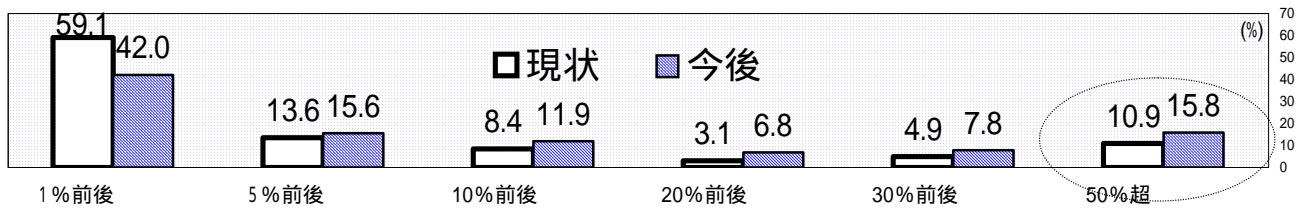
(注)CAD(Computer Aided Design)、CAM(Computer Aided Manufacturing)、CAE(Computer Aided Engineering)、CAT(Computer Aided Testing)はコンピュータ技術を活用して製品の設計、製造、工程設計、試験等を行うこと。

非製造業では情報通信業をはじめ、建設業、飲食・宿泊業などで比較的高い効果。電子商取引実施企業のうちでは、仕入の50%以上を占める企業も存在。

非製造業 IT活用の総合的な効果

	非製造業計	建設業	卸売業	小売業	不動産業	運輸業	サービス業	情報通信業	飲食・宿泊業
効果「有」	67.7	72.5	69.7	64.7	69.6	60.4	67.1	85.7	71.6
効果「無」	5.8	2.5	4.6	5.4	10.1	10.1	7.8	0.0	2.0
DI(有-無)	61.9	70.0	65.1	59.3	59.5	50.3	59.3	85.7	69.6

仕入・調達・購買額全体に占める電子商取引の比率(非製造業) (電子商取引実施企業のみ)

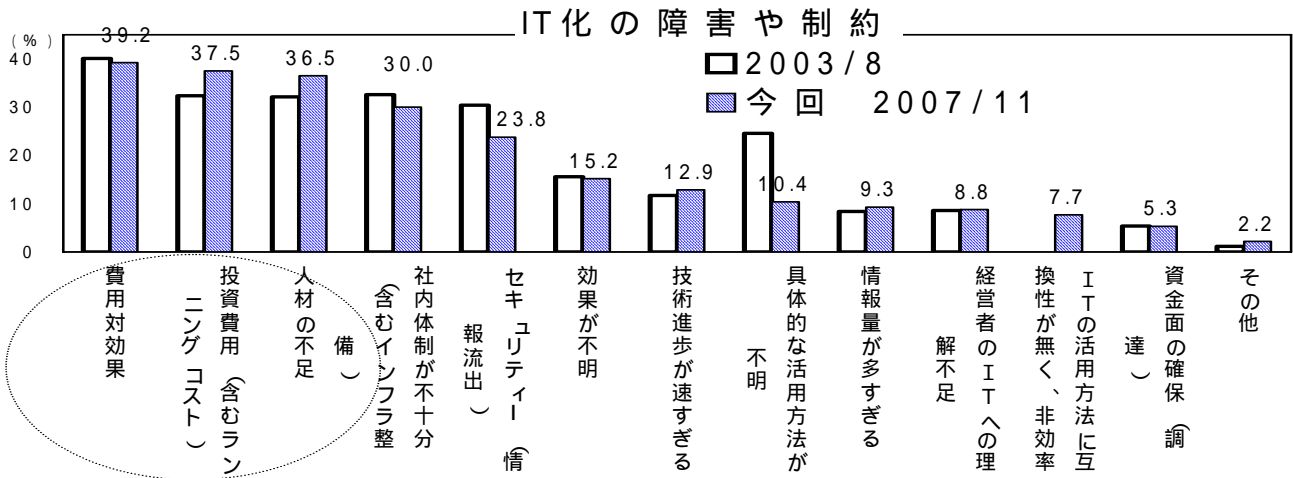


非製造業の電子商取引実施割合は、「HPでの販売・注文の受付」23.2%、EDI19.3%、その他9.2%(複数選択)

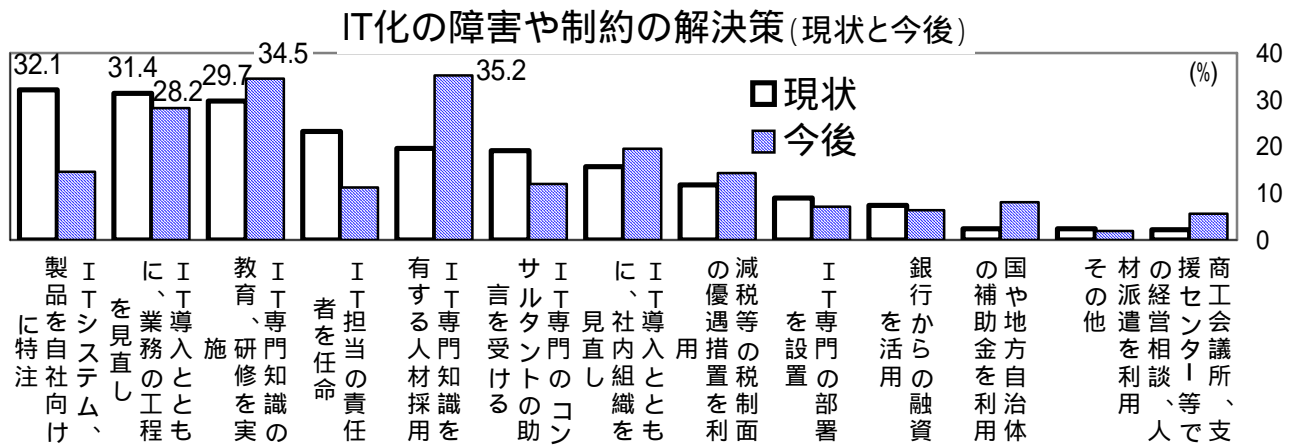
【自由記載より】

建設業	CADの活用により工場での加工の能率が格段に向上した様に、様々な面での運用が見込まれる。	
建設業	1. オフコンシステムとウィンドウズシステムとのリンク 2. 社内LANの構築	1. 管理帳票管理シートの自動作成による省力化、効率化 2. 人の動きがより見えるようになり報告、連絡、相談のスピード化、緊密化によるコミュニケーション強化につながった。
機械・金属・鋳造物・石油卸売業	外部よりの不正アクセスが増加して困っている	
その他卸売業	コンピューターウイルスによりかなりの期間使用不可対策ソフト等で費用増加。いらぬ経費増となった。今後社内での対応ルール等思案中	
その他卸売業	・国内仕入先への発注をEDI化した。 ・パート社員教育の為、E-learningを開始した。	・総発注額の約70%がEDI化でき業務の効率化が進んだ。 ・月3~4時間の個別教育が実施でき、精度やモラルのアップにつながった。
道路貨物運送運輸業	販売管理給与会計などのデータをDWH(注: Data Ware House)に取込みポータルサイトで分析参照を可能にした。(自社開発)	・前日の売上がリアルで分かるようになり経営判断のスピードUPにつながった ・求められる情報がかんたんに取り出す事が可能となった
道路貨物運送運輸業	1. 配車の状態をIT化し皆で配車を見られるようにした 2. 個車別の損益をIT化し、それぞれの損益はどうなっているのかを明確にした	1. 無理な配車や非効率な配車がないか分かるようになった 2. 収益を重視した活動に心掛けるようになった
道路貨物運送運輸業	ソフトのカスタム...オフコン指向は時代に合わなくなっているので汎用性の高い市販ソフトを使いコスト削減が可能となった	
旅館・ホテル	ホームページ英語版の作成	海外客の誘致
旅館・ホテル	ホームページからの申し込み対応やメールマガジンの配信を行なっている。	ネット扱いの利用客が25%になった。
旅館・ホテル	・HPの充実による予約etcへの活用	・顧客の囲い込に成功

IT化の障害や制約では、コストが高いこと、人材の不足、社内体制、セキュリティー等がハードルとなっている。



各種の解決策等により改善を図り、中小企業が更にITを有効活用していくことが期待される。



【自由記載より】

- 電気機器** IT化は流行ではいけない。企業体質強化策として具現化しなければ意味がない。戦略を立案し、効果を確認しながら進めていきたいと考えている。
- 輸送用機器** ・経営戦略に沿ったIT導入が重要・IT導入だけでなく現場の業務改善を同時多発的に実施する事が重要。
- 情報サービス** IT化といっても、業務内容によって、やり方も効果も、一律ではないと思います。IT化を進めるのが目的ではなく、どういうことをしたいか、どうなるべきか、という目的を明確にとらえ、あくまでもITは手段として、用いるべきで、IT化そのものではない気がします。

詳細は本編をご覧ください。